

中央大学理工学部電気・電子工学科

同窓會々誌



(撮影 29年卒 小林健一氏
「箱根足柄峠より見た富士」雲下に富士演習場)

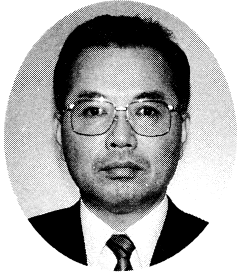
1997-10

34号

平成9年度総会・懇親会は11月8日13時

目次

会長あいさつ	天野 浩志	3
同窓生の皆様へ	小林 健一	4
定年を迎えて	有馬 純照	5
中大の思い出	鈴木昭太郎	6
新任にあたって	高窪 統	7
新任のご挨拶	國井 康晴	7
トドの詰まり文化論	菱沼 一夫	8
第4期生同級会	堀中 武和	12
二つの同期会	永井 甫	12
卒業30周年記念同期会で青春時代へタイムカプセル	富田 紘志	13
私の学生生活	佐藤 実穂	14
平成7年度会計報告		15
平成9年新規入会者の御紹介		16
危機に直面する同窓会財政に関するお願い	天野 浩志	16
ゴルフコンペ参加者募集		17
卒業生から〇〇先生へ		18
昨年の懇談会からのスナック		19
平成9年度総会・懇親会開催のお知らせ、編集後記		20



会長あいさつ

天 野 浩 志

昨年11月に開催されました平成8年度同窓会総会にて、常任幹事会の御推薦を受け、会員の皆様から御承認を得まして会長に選任されました、昭和39年卒の天野です。目覚ましい業績を残された前々会長の堀中先輩、前会長の青木先輩の後任として、若輩者の私とその任を全とうできるか若干の不安がありますが、会員の皆様の御理解と御協力を戴き、精一杯務めてまいる所存ですので宜しくお願い申し上げます。

我が同窓会は、平成9年3月卒業の諸君を加え、7722名の卒業生を擁し、社会のあらゆる分野で御活躍され、中央大学の名声を高めておられますことは、大変喜ばしい限りです。

昨年の会誌発行以降の電気電子工学科関係の情報をいくつかお知らせしておきます。

会員の皆様が、在学中に大変お世話になりました、小林健一先生が定年まで5年を残して御勇退、

有馬純照先生と鈴木昭太郎先生それに山口高文先生が御定年で、技術員の森泉隆さんは転職で、本年3月末に退職されて、夫々第2の人生を歩み始めておられます。

同窓会を代表致しまして、先生方の御健闘をお祈り致します。同窓生諸兄姉も何かの機会がありましたら、お手紙を差し上げて旧恩を感謝されれば幸いです。

また、4月から若さに溢れる高窪統先生（上智大学出身）が助教授として、國井康晴先生（中央大学出身）が講師として着任されております。

先輩諸兄が築いてこられた伝統ある同窓会を更に発展させるため、微力ではありますが鋭意努力を重ねてまいる所存であります。

皆様の益々のご健勝をお祈りしますとともに皆様の同窓会に対する御理解と御協力をお願いして、新任の挨拶と致します。

（昭和39年3月卒業）

昭和29年卒・2期生 小林 健 一

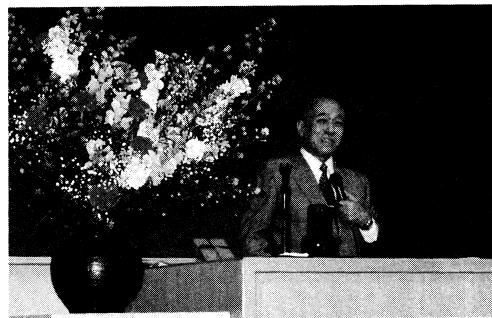
皆様御元気に御活躍のことと存じます。既に御聞きおよぎのことと存じますが、小生本年3月をもって本学教授の職を辞任致しました。昭和31年就任以来41年間の教員生活にピリオドをうったわけであります。

教職としての在任中を振り返りますと、色々な思い出に満ちあふれ感無量のものがあります。勤務場所については水道橋の山の上の校舎から始まり、後楽園の木造校舎そして現在地・春日の地における立派な建物と移り変わりましたし、それと共に教育・研究の環境もホームレスのような殆ど何もない状態から、かなり裕福な今日の状態へと充実して参りました。丁度敗戦後の日本社会の移り変わり同様に、素晴らしい躍進とレベルアップを見て来たわけであります。

然し、それ以上に工学部を法学部と聞き違えられるような零細学部から今日の私立大学有数のハイレベル校に数えられる内容・実質の発展は、教員サイドのささやかな努力と言うよりも、我々と一緒に勉強し、更に社会に出てから大いに頑張って来られた卒業生の皆様一人一人の努力の積み重ねの成果と言えましょう。

事実、日本全国の新制理工系大学の殆どは皆同ジスタートラインから出発したわけですから…。このような揺籃の時代から今日の成熟(?)した現代へとアップし続ける本学に一生の大半を委ねて参りました私の人生は間違っていなかつたし、いな幸運であつたと思っております。今や、7,000人を越す優秀な卒業生の皆様の活躍を見て、私自身納得をして職を退くことが出来ました。

去る2月1日(土曜日・大安吉日)に内外の方々の御好意を得て、私の最終講義をさせて戴く事が出来ま



した。御参集の方も大変多くおいでで、その演題は

… 拙速を尊ぶ …

でありました。これは中国孫子の兵法書にあるように、「兵は拙速を尊ぶ」から…戦闘に於いて最高の努力と速度で目標(勝利)に辿り着く事を良しとします。

然し、同時に私は副題として

… 時に追われて …

と付加えましたように、私の教育・研究面での今迄は、学生諸君の実験りポート同様に色々な締切りに追われ、責任行動の枠に押しつぶされそうな、時間との戦いへ連続であつたと思われます。勿論内外の皆様の御援助を得て大過なく過ごして来られたことに対して感謝し、納得し、満足をして来られたことに対して感謝し、納得し、満足をして来られたこと、先に述べた通りであります。これに加うるに私の生活条件つまり自宅を、都心の日本橋から上大井の現在地に移しての遠距離通勤、体調の不全等が原因でいわゆる「拙速」に終わらざるを得なかつたことを等を総合すれば、いささかの「悔い」は残ると言わねば「嘘」になるでありません。でも生粋の「江戸っ子」を自負する私にとっては、元気な姿のまま皆様の前から消えて無くなりたいと、思い詰めた結果であつたことを御了解戴けれ

ば誠に幸いであります。

「老兵は死なず、ただ、消えるのみ

(ダグラス・マッカーサー)。

……old soldiers never die,

they just fade away!!」

なる名言に自己陶醉している今日此頃であります。

私大のトップクラスと自負出来る我電気電子工学科

には、私のように弱い人間は別として日本有数の優秀且つ強い体力の先生方が陸続とひしめいておられ、本学科の将来に暗さは全く無いと思われまふ。大活躍中の諸先輩方と共に、母校の益々の発展・拡大を願つて御別れの御挨拶に代えさせて戴きたいと思ひ筆をとりました。皆様方の御健勝を祈ります。

平成9年4月1日

定年を迎えて

有馬純照

歲月というものは人間が年をとる程駆け足で追いかけてそして駆け足で通り過ぎてゆくものようです。今までは他人ごとのように考えていましたのにとうとう自分が別れの辞を書かねばならない羽目になりました。思えば昭和27年4月工学部電気工学科に奉職して以来アットという間に45年の歲月が流れ本年3月31日をもって無事定年退職しました。

約半世紀近くの教育の場に携わらして頂き大過なく勤務することができましたことは偏に同窓生諸君のご厚情・ご支援の賜と衷心よし厚くお礼申し上げます。

45年間楽しかったこと・嬉しかったこと・苦しかったこと等いろんな思い出が走馬燈のように私の脳裡をかけ巡りますが中でも昭和27年勤務当時水道橋校舎(戦災で焼け残った建物)からのスタート 機器類はもとより机すらない本当に何もないガランドウからのスタートでした。明けても暮れても毎日毎日実験セットの製作に又何処から集められたのか中古機器のチェック・修理に追われていたあの頃の事が忘れられない思い出として心に強く残っています。

昭和34年頃から私大理科助成金の交付により装置・設備の整備が始まりました。昭和37年現在の富坂校舎へ移転するに及んで急速に装置・設備の充実をみるに至りました。そして授業に研究活動に一流大学を目指して第一歩を踏み出したのでした。

あれから30年若い優秀な先生方も加えて遂に早・慶の域に追いつくまでに至ったことは同慶の至りです。扱、45年間の歩みが止まりストーンと空白の中に身を置いてみますと何を手掛けたらよいかちよつと戸惑いがあります。一方ではこれからの残された人生を自分自身のロマンを目指して有意義に埋めて行きたいという気持ちの高ぶりを覚えます。

今後は「老いて学べば死して朽ちず」という先賢の教えに従い新たな生甲斐を求めて実りのある第二の人生を送りたいものと考えています。幸いまだ健康ですので少しの間充電してマイペースで歩き出したいと思っています。

最後に同窓生諸君の一層のご発展とご多幸を祈念してお別れの辞とします。

鈴木昭太郎

同窓会の皆様、ご無沙汰致しておりますが、お元気で各所でご活躍のことと存じます。さて幸か不幸かは分かりませんが、丁度三月下旬生まれの私は、本年の三月三十一日をもちまして、長年勤務した中大を退職をさせていただきました。

今年、同じ様に定年を迎えられるある先生の「定年退職の送別会は中大で開かれるパーティの中で最も豪華と聞きましたが」とのお話にその日を期待しておりましたが、予約をしておりました病院からの事務連絡があつて入院、さらに不運にも三月三十一日が手術日となりまして、その後二、三日は動けない始末、健康の有り難さを正に身をもって感じさせられた次第です。丁度、最終楽章も終りに近づいた頃、突然、普段には無い曲想を壊す不協和音が鳴り響きわたったようなものでした。

健康は金では買えないと言われてますが、ほぼ正しい言葉だと思います。最も大切なことは、月並みですが体調と仕事とのバランスを考えて、身体の機能の恒常性を保たせることでしょうか。しかし、錯覚と過信と未来願望に生きやすいヒトにとっては、概して仕事が優先してしまう事は否めません。仕方がないことですが、時折は気をつけられてご自愛ください。

中大での思い出を回想しますと不思議な事を感じます。昭和三十年ごろのJR水道橋駅近くの工学部校舎、昭和四十年代の授業料値上反対の学園紛争に渦巻いた現在の富坂校舎、またそれから年号の改まった平成の現在までの思い出は、まさに光陰矢のごとしです。加えて矢の速さは、現在に近づくほど早く感じるのは私だけではないようです。どうやら感覚的な時間は、時

間軸が対数圧縮されて仕事量が縦軸に示される一枠のセミログペーパーの図形を見るような気がします。そしてこの中に人々の足跡が印されているのでしょうか。

工学部校舎の屋上の部屋で行った静電偏向型のテレビの試作、昭和四十四～六年頃、徹夜あけに傍受した警察無線の交錯する指令の臨場感の迫力、十時以降の実験が許可されないために夜中だけ借りた研究室での測定、鮎屋で聞いた除夜の鐘、化学科で起きた火災による停電で、一年近くかかって作った三百二十数匹の凍結したラットの心臓試料の溶解などは昨日のように鮮明に記憶しております。

しかしこれらの事を支えてくれたのは、当時は学生であつた皆さんでした。先日、これらの人々がパーティを開いてくださいました。懐かしい顔、顔、顔でした。

後で皆して書いてくださった寄せ書きの色紙の中に、

「学生時代にお会い出来たことが私にとって宝です。云々…」

という一文がありました。教育者冥利に尽きる言葉ですが、私もまた

「中大時代にお会いできたことは私にとって一生の宝です」

と思っております。

何卒、十分に身体を大切にされてご活躍されますことを心から願っております。

高 窪 統

平成9年度から中央大学に参りました、新任の高窪です。中央大学は、私にとってまことに縁の深い大学であり、自門をささえる一員として受け入れて頂いたことを深く感謝致すとともに、研究者、教育者として努力致しますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、近年における大学の大衆化は目に余るものです。電気・電子工学を専攻しながらも、全く関係のない分野に就職して行く学生達が後をたちません。元来、大学は専門の学問を研究する場でした、学問を志す学生で構成されていました。現在は、大学を就職のための窓口とだけ考えている学生が大半を占めています。しかしこれも世の中の流れです。物質に恵まれた今日の生活そのものがこの流れを作り出しています。唯一この流れに逆らって研究をしているのは、外国からの

留学生たちです。これが私の見てきた他大学の現状です。

世の中の流れをかえることなどとうていできません。けれども妥協をすることなく学生に接したいと思えます。それが大学の大衆化に対する私のささやかな抵抗です。同じ道具からは、似通った結果しか得られません。自分の道具を自分で組み立て、自分の道具だからこそ可能となることを発見していく能力を大切に育てたいと思えます。自分の道具を使って自分の研究を展開できる学生を、一人でも多く世の中に送り出すことができればと考えます。そうすることが大学の大衆化のはじめ、延いては文明の飽和を少しでも遅らせることにつながればと考えます。

新任のご挨拶

専任講師 國 井 康 晴

初めまして、新任の國井康晴と申します。3月に博士課程を修了したばかりの新米ですがどうぞ宜しくお願いします。

私の赴任最初の仕事(?)は、4月に行われた理工学部の入学式への参加でした。自分自身の学位授与式から日をおかずして参加したこともあります。教員として最前列で新入生を見ていると不思議な気持ちが

してきます。

振り返ってみると自分自身も中央大学の新生として彼らと同じように座っていたことがあり、あれから長いようで短かった9年が過ぎたことが実感されます。大学に入った当初は、とにかく受験が終わったことにホッと、右も左も分からない状態でした。高校の授業とは違い、大学の授業までは先生方が訳の分からな

いことを話すのに、ただ、ただ驚かされるばかりであったのを記憶しています。

それから時が経ち、卒研では、先輩方に影響され外部の研究機関での実習を希望し、篠田研で修士までお世話になりました。しかし、あの頃は実習先で周りに追い付いて行くのに必死になりほとんど研究室に顔を出さず、学内や研究室の手伝い等もせずに、同期生や、篠田先生を始め先生方にはご迷惑をおかけしてしまいました。

その後、実習先の、研究機関が所属する博士課程に進学、修了し、母校に戻ることが出来た訳です。本当に幸運だったと思います。当初決まっていた進路に関してかつての恩師である篠田先生にご相談しに行った

ところ、たまたま人事会議の前日と言う具合でした。

今、思い起こせば、中央大学に入学してから私の人生は大きく変化したと思います。母校である中央大学には人生におけるチャンスをもらい、指導教官であった篠田先生をはじめ多くの諸先生方、先輩後輩に支えていただき現在の自分があります。

そしてやっと今、その母校に恩返し出来るチャンスを得たのではないかと勝手に感じております。今後、いつか自分が頂いたようなチャンスを後輩達にあげられる存在になって行きたいと感じております。まだまだ、未熟ではありますが、これからどうぞ宜しくお願いいたします。

「トドの詰まり文化論」 3

「とんでもない」事は、本当に「とんでもない」か？（1）

昭和39年卒 菱 沼 一 夫

1.はじめに

経済成長の続いた社会の企業に属して、技術の世界に長い間、身を置いて今日を迎えた様々な事柄が過つて行く。

20世紀の後半に培われた「高度経済成長」下で容認された増収・増益の「諸活動」は、21世紀を迎える今日、近代国家に相応しい「倫理観」の台頭によって内部崩壊を始めた。

果たして、技術者集団は、この間どのような行動をしていたのか。

“バブル経済の隆盛”は、現代科学の粋とも言えるコンピュータ産業の大発展が下支えをしていた事を誰が否定できるか。

個別技術の開発に“腐心”し、「個別経済」の発展に関

係して来た技術者集団は、バランスのとれた文化の発展に貢献、寄与し得たと時代が証明してくれるだろうか？

近年のラジオ、テレビの音と映像のマスメディアは、数十年のイデオロギー国家の崩壊を促している。そして、数千年の流れ（歴史）を持つ民族の抗争が世界の各地で再開されている。

更に、“インターネット”の普及は、従来のメディアがマスコミュニケーションであったのに対し、個人単位の双方向性、24時間のエンドレス、ボーダーレス等の従来の国家単位の価値観さえ、“無力化”、“不要化”する文化を構築しようとしている。

技術の問題にしろ、経済の問題にしろ、グローバルな変化に日本とアメリカは世界に深く関与している。

「景気の問題」、「政治の問題」、「国際間の問題」、「倫理の問題」、「犯罪」等当たり障りのあることは、「とんでもない」と言う“大衆合意的な価値観”を、ある時は、政治家の主張、ある時はマスコミの“報道”や評論家の意見に従い無難な“価値観”、“倫理感”を作り出して来た。

グローバルに診ると今日の日本人とアメリカ人が“特異的”活動をなしえているのか、「トドの詰まり文化論」1. (1995年) 2. (1996年) で日本文化とアメリカ文化の成立の考察をして診た。

本稿では、各論に入り、「『とんでもない』事は、本当に『とんでもない』か？」を一考して診たい。

2. “不景気”と言われる今日の日本経済は、本当に“不景気”か？

アメリカ、ドイツ、フランス等の先進国でさえ、日本が“不景気”に喘いでいると言っても、「とんでもない」や“してやったり”と言うことがあつて、も同感するものは居ないであろう。

ましてや開発途上国の人にして見れば、「とんでもない」どころかこんな質問をしたら、殴られるかもしれない。

少し、データを見て診よう。表一に日本の国勢の概要を示した。

世界の1/50の人口、1/330の企業数、1/6のGNP、輸出入黒字ストックの1/2、低い失業率、これらの数字から日本の企業活動の“優秀性”が“常識的”には言えそうであるが、一方では、高い人件費、低い食料自給率、極めて低い農業生産性に高額の国費援助が背面にある。

分かり易く言えば、「諸外国から食料、天然産物を自然破壊を起こしながら、安く買入れて、輸出と言う手段で製品を高く売り付けている」と言う論理になる。

経済の原則と言えらうが、経済もスポーツのようになって貰いたいものだ。

同一の体力、条件での争いでなくてはならない。

少数の人間の私利権力維持の“経済活動”に至っては許しがたい行為と言わなければならない。

以上のバックデータを表一2に示した。

俵 孝太郎氏によれば、“不況”と言われる所以は、①土地、②株価、③税金 にあると言われる。

表一3に関連の指標の暦年値を示した。

GDPを診る限り、国際的には“不景気”と言いがたない。

しかし、この裏には、今や30兆円産業となったパチンコの売上の算入額の操作があるそうだ。

土地、株取引額は、ピークには、“平年”の1.5倍、2倍であり、ピーク時を基準にすればひどい落ち込みと言えよう。

当然のこととしても税収も1.5倍の変動をしている。しかし、“クレイジー”な一時期があつたと考ええると、今日のレベルは、平成1年以前の経済成長の外挿線にあり、“クレイジー”な経済状況を再現しないようにすれば、少しも心配することはない。

3. 世界はまだ平和でない

東方の“トド詰まり文化国”日本人にとって、戦争も「とんでもない」（関係ない）ことの一つであろう。

“トド詰まり文化”発祥のメソポタミアと言われる地域は、湾岸戦争の地、今のイラン、イラクである。

そして、その周辺は、ユダヤ、パレスチナの民族、宗教の存続の攻防が、今なお繰り返されている国々がある。

1996年5月現在の国連の平和維持活動（PKO）は、世界中で16箇所であるが、この内11箇所が中東、中近東、周辺のアフリカ、アジアの4箇所であり民族抗争が今なお継続していることを裏付けている。（表一4参照）

ヨーロッパには東ヨーロッパ、西ヨーロッパと分類された国々がある。

民族と宗教が国家の成立、存続に深く拘わって、これらの国々は、ここ500年を見ても国家の体制は度

々変化したり、滅亡した国々がある。

東ヨーロッパのソ連を中心にした「社会主義」と言う思想によって、民族・宗教の壁を統一した国家運営が試みられたが、50年余りで破綻をしてしまった。

イデオロギーが民族意識を越えられない歴史的な証明となっている。

1000数百年に渡って、民族間の「大きな変化(戦争)」のなかった日本人には、中東の民族抗争は理解し難い、当該国の人々にしてみれば、逆に国の崩壊の歴史を持たない日本をもっと理解し難いであろう。

近代文明(技術)は質、量、速度共に、とてつもない物流方法と情報伝達手段を構築しつつある。

太平洋、大西洋の地理的条件さえも駆逐しつつある。

ややもすると数百年もかかっていた、人の気持ち、価値観、生活習慣の“ゆるやかな”変遷は、10~20年の短期で激変させてしまうのかも知れない。

数百年、数千年掛けて人々の行動によって伝承され

てきた文明は、新たな情報システムによって、世界的にリアルタイム化しつつある。

文化の成立過程で広がりをもった今日、欧米諸国や開発途上国の人々との交流は、小手先の経済活動だけでは納得性が得られなくなっている。

己の文化の成立を理解して、相手の文化との相違を理解した行動が期待される。

安易な消費が豊かな生活の糧なのだろうか。

自然を活用できるのは、人類の特権ではあるが、環境問題を論ずる前に、度が過ぎた、何でも加工しないと事が済まなくなってしまう状況を振り返り

い。目先のPETボトルのリサイクル活動があたかも地球環境の改善に貢献しているかのような錯覚から脱して、「環境マネージメント視点」での経済活動が日本に期待されている。

(39年卒 菱沼技術士事務所 代表) 以上

表一 1 日本の主要国勢

★日本の今日：

- ・人口；世界の1/50
- ・企業数；世界の1/300
- ・GNP；世界の1/6
- ・蓄積；世界の1/2
- ・失業率；=3%
- ・人件費；高い(他の主要国の2~1.4倍)
- ・食糧自給率；低い(22%)
- ・食費；高い(2~1.5倍)
- ・貯蓄率；高い(4~2倍)
- ・農業；生産性極低い

表一 2 日本と主要国の国勢比較

項目	日本	アメリカ	ドイツ	フランス	イタリア	スイス	カナダ	備考
国土 (千km ²)	378	9,364	357	552	301	41	9971	1994年
人口 (千人)	124,961	260,651	81,410	57,973	57,193	6,995	29,251	
人口密度(人/km ²)	331	28	228	105	190	169	3	
都市人口の割合(%)	78.1	75.2		74.0	96.6	68.2	76.6	90~95年
大都市数(百万人以上)	11	9	3	1	3	0	1	90~95年
高齢化率(65才以上%)	14.6	12.7	15.0	14.5	14.8	15.0	11.8	94年
賃金の比較(指数)	100	55.9	70.2	47.6	100.6	96.2	65.3	94年；製造業
国内総生産(百万ドル)	4,590,940	6,738,400	1,834,915	1,329,881	1,017,800	257,293	549,246	
世界総計の割合(%)	18.2	25.7	7.9	5.1	(EU:12ヶ国:26.5%)		2.1	
1人当たり(ドル)	36,739	25,852	28,095	22,969	17,797	36,809	18,778	96年3月発表値
穀物自給率(%)	22	109	106	221	80	53	146	日本；エネルギー換算
農業就業人口(千人)	3,325	2,524	1,625	1,133	1,343	123	392	1994年
割合(%)	5.2	2.0	4.0	4.3	5.7	3.4	2.7	
耕地の割合(%)	11.8	20.1	33.9	35.2	39.4	11.3	4.6	
一人当たりの生産量(トン)	4.75	141.59	22.37	47.34	14.09	9.90	120.04	

自動車の生産(千台)	10,554	12,263	4,356	3,558	1,534	-	2,322	
自動車保有台数(千台)	50.7	75.2	51.8	46.9	56.8	49.4	59.4	100人当たり
道路延長 (km)	1,137,453	6,284,039	639,805	812,550	305,388	71,348	901,903	91~96年
人口千人当たり(km)	9.10	24.35	7.94	14.03	5.38	10.21	31.72	
自動車1台当たり(m)	17	32	16	30	10	21	53	
道路密度(km/km ²)	3.01	0.64	1.80	1.47	1.02	1.70	0.09	
研究費 (兆円)	13,7091	17,8754	5,2695	3,3530	—	—	—	
電話加入の回線数 (百人当たり)	47.7	57.6	45.4	53.6	42.3	61.5	57.8	93年
電子メール (千)	1,200	31,500	2,200	850	350	620	1,700	94年1月推定
世界の割合(%)	2.6	68.1	4.8	1.8	0.8	1.3	3.7	
インターネットホスト接続数(千台)	269	6055	453	138	—	—	373	96年1月
成長率(%/年)	126.4	85.9	89.0	74.4	—	—	91.9	
家計消費:1人の可処分所得(千円)	2,512	1,969	1,500	1,622	1,185	—	1,432	93年
食品・飲料・煙草(千円/%)	422/16.8	209/10.6	255/17.0	272/16.8	242/20.4	—	199/13.9	
衣服・履物(*)	122/4.9	111/5.6	101/6.7	88/5.4	109/9.2	—	66/4.6	
娯楽・水道・光熱(*)	441/17.6	247/12.5	279/18.6	309/19.1	203/17.1	—	313/21.9	
家具・家庭器具(*)	125/5.0	115/5.8	120/8.0	111/6.8	109/9.2	—	111/7.8	
医療・保険(*)	239/9.5	328/16.7	69/4.6	151/9.3	85/7.2	—	58/4.1	
交通・通信(*)	205/8.2	247/12.5	213/14.2	233/14.4	139/11.7	—	181/12.6	
娯楽・娯楽(*)	226/9.0	192/9.8	131/8.7	110/6.9	105/8.9	—	142/9.9	
その他(*)	361/14.4	438/22.2	147/9.8	188/11.6	192/16.2	—	233/16.3	
貯蓄率(*)	370/14.7	83/4.2	184/12.3	157/9.7	—/—	—	130/9.1	

菱沼技術士事務所 General Information 1996-12 FDA03-117 (改) → FDA03-159

表-3 日本“不景気”を裏付ける指標の歴年値

	60	61	62	63	H/1	2	3	4	5	6	7	8
バブル					↑(ピーク)			↓(ボトム)			バチンコ+16 ↓算入	
GDP(兆円)	324	339	354	377	402	432	455	464	467	478	483	495
土地			1672		2153	2389	2190	1968	1855	1770	1700	
株取引総額			345		690	393	391	299	324	358	375	
法人税	12				19	18.4	16.6	13.7	12.1	13.6	13.7	
個人申告	3.2				6.1	7.2	7.2	4.7568	4.805	3.7025	3.7885	
源泉徴収	12.2				15.3	18.8	19.1	18.4728	18.906	16.7142	15.7265	
消費税					H/2~3 従大な利子税							
								5.2409	5.5565	5.6306	5.788	

菱沼技術士事務所 General Information 1996-11-6 FDA00-138

一4 国連平和維持活動(PKO)の現況 [1996年5月現在]

①パレスチナにおける休戦状態の監視	(USTSO)	: 1948年6月~
②インド・パキスタン軍事監視団	(UNMOGIP)	: 1949年1月~
③キプロス平和維持隊	(UNFICYP)	: 1964年3月~
④イスラエルとシリアのゴラン高原休戦監視	(UNDOF)	: 1974年6月~
⑤レバノン暫定隊	(UNIFIL)	: 1978年3月~
⑥イラク・クウェート監視団	(UNIKOM)	: 1991年4月~
⑦西サハラ住民投票監視団	(MINURSO)	: 1991年4月~
⑧グルジア停戦監視団	(UNOMIG)	: 1993年8月~
⑨リベリア内戦停止監視団	(UNOMIL)	: 1993年9月~
⑩ハイチ民主化派遣団	(UNMIH)	: 1993年9月~
⑪タジキスタン停戦監視団	(UNMOT)	: 1994年12月~
⑫第3次アンゴラ休戦監視団	(UNAVEM III)	: 1995年2月~
⑬マケドニア・旧ユーゴスラビアの紛争予防	(UNPREDEP)	: 1995年3月~
⑭ボスニア・ヘルツェゴビナ派遣団	(UNMIBH)	: 1995年12月~
⑮東スラボニア(セルビア・クロアチアへの統治移行) 暫定統治機構	(UNTAES)	: 1996年1月~
⑯ブレブラカ(クロアチア) 監視団	(UNMOP)	: 1996年1月~

第4期生 同級会

昭和31年卒 堀 中 武 和

去る6月28日(土)東京上野のふくしま会館に於いて10年ぶりの同級会を催した。卒業生41名中の13名が、北は北海道、南は九州より集まり、久しぶりの再会に話がはずんだ。卒業以来と云う人もいて彼は誰だ、と云う御仁もいたがすぐ昔の面影と結びついたようである。

60才も半ばにさしかかった者の話題は、仲間の消息、第2の仕事の話、健康に関する話を中心であるが、此れからの老後を如何に過ごすべきかと云うことにもなる。(さすが男子か、孫の話は出ない。まだまだ元気。)そんな中でこの同級会は5年に1度持つことになっていたが、それでは後2~3回でお仕舞いになるかもしれないので、2年に1度持つことに改めることとなった。

早速に次回平成11年の幹事は今野氏に決定。横浜辺りで持ちたいとか。その他にスペシャルのクラス会を、沖縄、九州、北海道でどうかとか、もつと色っぽい処でやれとか、元気の良い御仁もいて止まるところなし。午後3時より始まった会は夜8時過ぎ迄、台風

の接近もものともせず、最後まで盛り上がっていた。

ところで、井出三郎、出井清、井上武彦、河原正夫、高野善雄、富岡勉、和田逸雄の諸氏との連絡が取れません。御存じの方は御一報ください。

最後になりますが、永松清興氏(平成7年)、宮沢久一氏(平成8年11月)、内田早苗氏(平成9年4月)がそれぞれ逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

(今回幹事 遠藤、吉村、堀中)



二つの同期会

昭和33年卒 永 井 甫

1. 「中大電気33会」

昨年3月再発足した電気科同期会の懇親会が今年も3月22日(土)・23日(日)一泊でリゾートピア熱海で開かれました。会場は柳楽氏のご好意で手配い

ただきました。

当日は午後3時過ぎから懐かしい顔ぶれが三々五々集まり、稲葉氏のように卒業以来初めてお目にかかれる方もありました。

(出席者) 会田精一、市川友之、稲葉繁、杉山良市、鈴木轟八、東井克夫、菱田武彦、松田行雄、溝口成一、柳楽光廣、横川博、馬場洋一、永井甫

お互いに近況報告した後は、学生時代の思い出話に花が咲き、又先生や本日出られなかった同期の方の消息などの情報交換がありました。中大を卒業して39年の歳月が流れ、在学中教えていただいた先生方の多くが定年で学校を去られ、同期の友達も現役の方や既に職を辞し第二の人生を歩んでいる方など様々です。

この会の趣旨「年に一度恒久的に集い、昨今を語り、親を深めましょう」のつとりに、来年の再会を約し散会しました。次回は来年3月7日(土)・8日(日)を予定しております。また改めてご案内状を差し上げますので初めての方もぜひ気軽にご参加下さい。

懇親会はテーマを決めるとさらに有意義になるのではないかという提案がありました。次回は、“私の健康法”をテーマにしたらいかがかと思っておりますのでご意見をお聞かせ下さい。

なお会の幹事長は東井氏、事務局長には市川先生にお願いし、会長は最年長者ということで私がお引き受けしております。

2. 「中央大学白門三三会」

中央大学昭和33年卒業者の会で、毎年3月3日の雛祭りの日に総会・懇親会を開いています。

今年も3月3日(月)、東京・市ヶ谷のグランドヒル市ヶ谷新館で開かれ158名が出席しました。

(電気科出席者) 会田精一、鈴木轟八、東井克夫、柳楽光廣、永井甫

新会長中津川彰氏(法学部卒・中央大学大学院講師)より「悔いのない人生を送るためにも、これまでの経験を踏まえ意気揚々たる若者の如き集まりの会とした」の挨拶がありました。記念撮影後の懇親会は至る所旧友の輪ができ、シャンソン歌手のアトラクションもあつて盛会のうちにお開きとなりました。

「白門三三会」は文系・理系合わせて一千名を超える大所帯ですが圧倒的に法・経等文系が多く理系は少数派です。しかし、会で顔を合わせれば専攻科に関係なく同じ白門同期として楽しい話題が尽きませんでした。

三三会役員には1994年から永井が幹事に名を連ねていましたが、3年間の任期満了で本年会田氏にバトンタッチいたしました。

(元沖通信システム(株)取締役社長)

卒業30周年記念同期会で青春時代へタイムカプセル



昭和41年卒 富田 紘 志

卒業20周年記念同期会(昭和61年8月)以来10年振りに昨年11月小岩の湯宴ランドで開催、電気・電子工学科同窓会(同日)に引続いて前記念会場にて、ゆつくり風呂でさっぱりして、旧交を温める。それぞれナイス・フィフティで遅い仲間の集りとなった。

参加者 高橋暢也(日本航空) 田口昭夫(東京電力)
為則知之(金門制作所) 富田紘志(トッパン・フォー
ームズ・オペレーション) 柳下敏男(厚生省) 戸
川英明(旭工学) 小野祐資(キヤノン) 小川一雄
(東陽テクニカ) 高橋章(NTT) 橋本正樹(中電
工) 山縣芳文(石川島産業機械) 吉川邦男(千葉
精密) 福島淳(株エナ)

水越輝(IBM) 田中俊六(スーパータナカヤ)
小林正次(NTT) 高橋秀男(三慮久) 以上17
名。なお同期会開催案内状送付につきましては同窓会
開催案内に便上させて頂きました事同窓会役員皆様へ
この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
(トッパン・フォームズ・オペレーション株) 以上

私の学生生活

4年 佐藤実穂

この4年間を、いろいろと楽しくかつ忙しく過ごしてきた。そしてあらゆるものが強く印象に残っている。

理工学部特有の実験レポートはかなり労力を要し時間がかかったし、テストも3年生までは多かった。バイトは今でも週5回行って、たまったお金を利用して合宿や旅行に行った。泳ぐことも好きだし、美術館や映画館にもよく足を運んでいた。また、短期の留学で韓国にも行き、韓国の大学生と交流する事で自分の考え方に大きな影響を与えた。まだいろいろあるが、数えだしたらきりが無い位密度の濃い大学生活を送ってきたと思っている。

この様に過ごしてきたのは私の性格のなせた業といえよう。気合い、集中力、根性。私の外見からは、想像もつかないような言葉だが、この性格のおかげで、何事に対しても、気を抜かず充実した生活を送ってきたのである。自主性が求められるのが大学生活であるが、本当によく遊び、よく学んだ。

高校生までは自由の利かない環境であったと思う。

学校や部活などに縛られて自分の時間を持つ事が難しかった。大学に入ると学校は強制ではなく自主になる。授業もさぼることが出来るし毎日遊んで暮らすことも可能だ。でもその中で私は色々なことに顔を突っ込むことが楽しいと思っていたし、実際楽しかった。時間を割り振って自ら生活のリズムを作り、その時間のなかで自分のしなければならぬ事やしたい事を、楽しく、前向きにやっていく姿勢を作ることができたのだ。周りに流されず自分のスタンスを作り上げることができた。

昨日の自分と今日の自分が変わったとは思えないが、4年前の自分と今の自分とは決して同じものではない。この慌ただしく過ぎていった日々は、何気ない一日でも確かに自分を成長させてきたと思っている。だからこそ今までもこれからも慌ただしく過ぎ去っていく毎日を大切に過ごしていきたい。(NTT内定)

平成7年度 会計報告

収入の部

前年度よりの繰越金	3,356,390円
平成7年度総会費	552,000円
預貯金利息	16,393円
名簿売上代金	0円
終身会費	470,000円
寄附金	0円
広告料	0円

計 4,394,783円

支出の部

平成7年度総会費	494,000円
通信及び印刷費	998,754円
アルバイト代	5,000円
事務・運営費	46,278円
名簿関係 印刷費	0円
通信費	830円
アルバイト代	0円
事務費	40,000円
慶弔費	0円
次年度繰越金	2,809,921円

計 4,394,783円

上記、平成7年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成8年11月6日

理事 服部 修 (印)

新規入会者の御紹介

下記の71名の方々(敬称略)が入会しましたのでご紹介します。

'97.7.24現在

研究室名	入会者/卒業生	入会者名
猪狩	4/13	小沢 信 河内剛志 野瀬尊之 宮島和広
稲葉	4/14	横野秀樹 鈴木講太郎 榎本澄夫 國保大樹
遠藤	2/15	青柳 稔 田中 亮
木下	4/15	尾方英宣 末永十一 峰松 宏 金山伸行
小林(一)	5/16	中島貴司 奥村重厚 船山英彦 福本真二 島津琢実
小林(健)	9/13	大栗寛之 渡辺 隆 小林照弘 大瀧基嗣 津嶋照久 上村和巳 鎌田幹生 桐生直人 河戸大介
榊原	3/14	佐藤徳孝 山口英明 折山 治
篠田	1/15	赤土健一
白井	14/15	村松亜修 酒井与志亜 中田貴之 加藤高明 村越 稔 友野崇彦 渡辺健一郎 高山純一 鈴木正行 林 俊光 板垣朋範 永見 有 長谷川史子 佐藤亮一*
杉本	2/14	林 保 小池 玲
趙	7/15	内田正臣 石井進也 浦 康一 中島将揮 宇野晋平 山崎雅樹 岡田紳太郎*
築山	11/14	須恵大介 中村健彦 原田敏峰 野村朋総 原田 哲 早川二郎 安川征求 高木慎也 常森 亮 馬場克敏 平井敬二
徳丸	5/15	北原基成 新島功規 中山源朗 盛永一郎 岩崎荘一
	71/188	注) *印は大学院卒

危機に直面する同総会財政に関するお願い

会長 天野 浩志

現在、同窓会の抱える最大の課題は、財政基盤の確立であります。現状の財政状況のまま推移しますと同窓会の存続すら危ぶまれる事態に直面しております。

その主要な原因は、新卒者の入会率の低迷が過去10年以上続いていることに尽きると考えております。同窓会の財源は、新入会者から、入会時に納付される終身会費（1万円）により賄っておりますが、例年20名程度しか新入会者がおりません。

一方、毎年開催される総会開催の御案内および会誌製作費と郵送費に約100万円支出されております。今までは、過去の繰越金で凌いでまいりましたが、決算報告で明らかのように、あと1～2年で破産状態になることは必須と予測されます。

常任幹事会としては、この事態を打開するため、一昨年以来、卒業論文を御指導されておられる先生方の御協力を得まして、研究室単位で同窓会への入会をお願いしてまいりましたが、決して十分な成果が上がつているとは思われません。

但し、本年3月卒業生に関しては、先生方の力強いご協力を戴き、71名の新入会者を得ることができました。先生方の同窓会に対する御理解と御協力に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続きご協力賜りたくお願い申し上げます。

新卒者がこぞって入会するような魅力のある同窓会にすることも、幹事会に課せられた使命であると痛感しておりますが、財政難のため、思うような企画ができないことを御理解下さい。

現在、総会開催の御案内と同窓会会誌は卒業生全員に毎年郵送しておりますが、来年度以降は、入会者の

みに郵送し、経費を削減することが、財政再建に対する一つの解決方法ではないかと常任幹事会で検討しております。

そこで、卒業生の皆様にお願ひがあります。御自分の卒業時のことを思い返してください。

同窓会に入会したか否かを確認し、もし未入会であれば、誠に御面倒でも下記宛の何れかの、お名前、卒業年、住所、電話番号等を明記の上、終身会費（1万円）をお送りください。

尚、同窓会は、大学にとって任意団体であるため、大学側が同窓会に代り終身会費を徴収していませんことを念のため申し添えておきます。

入会は、何時でも受け付けております。

●現金書留郵便の場合

〒112文京区春日1-13-27
中央大学理工学部電気・電子工学科
市川 友之先生 宛て

●郵便振替場合

口座番号：00130-7-752276
加入者名：中央大学理工学部
電気・電子工学科同窓会

●銀行振込みの場合

東京三菱銀行 春日町支店
(普) 0286586 中大電気同窓会

また、同窓会の窮状を救おうという義侠心に富んだ方から浄財の御寄付を歓迎致します。御寄付も上記の

何れか宛てに御送金下されば幸いです。

同窓会では収入増を図るため、下記の事業を継続して実施しております、皆様の御協力をお願い致します。

● '96年版 同窓会名簿の販売

頒布価格：4,000円(送料込み)

申込み先：市川先生宛て

● 名簿データベースからの情報提供

名簿データベースのデータ精度が向上してまいりました。これを会員の皆様に有効に活用して戴きたくご案内します。

提供できる情報は、卒業年、氏名、郵便番号、住所、電話番号、勤務先名が登録されておりますので、御希望の条件でピックアップして提供できます。

提供価格：5,000円(送料込み)

申込み先：市川先生宛て

申込内容：具体的条件を明記のこと。

例えば、

・昭和〇〇年卒業生のみ

・〇〇(株)在籍者のみ

・〇〇県在住者のみ

提供媒体：3.5インチフロッピー

固定長テキストファイル

同窓会の財政を再建し、伝統ある同窓会を存続させ更に発展させるため、意をお汲み取りの上、皆様の絶大な御理解、御協力をお願い申し上げます。

(昭和39年卒)

電気電子工学科の教職員とOBによる親睦会を結成

☆ゴルフコンペ参加者を募集しております☆

平成8年9月に本学科教員と卒業生の親睦をゴルフ等を通じて図り、本学科の発展に寄与することを目的として、中大電気科OB会(仮称)が結成されました。既に2回のゴルフコンペを開催し、同窓会前会長の青木義雄氏寄贈の「青木杯」を賭けて、腕に覚えのある方も無い方もスコアを競い楽しみました。

それというも過去にこの会のコンペに参加した方は、本会が定めるハンディを、初参加者は新ペリアに由来のハンディを適用して順位を競い合うため、誰にも優勝のチャンスがあるからです。

・第1回コンペは、美里ロイヤルで開催し

優 勝：青木義雄(昭和32年卒)

準優勝：重政弘康(昭和35年卒)

・第2回コンペは、奥武蔵カントリーで

優 勝：天野浩志(昭和39年卒)

準優勝：築山修治(本学科教授)

以上の各氏が栄冠を手に入れております。

本会コンペの特長は、そのハンディ制定方式にあります。例えば、

・ハンディの上限は、40とする。

・優勝、準優勝、3位の入賞者の次回ハンディは厳しくする。

・BB賞者の次回のハンディは甘くする。

・ネット90を越えた者の次回ハンディは甘くする。等々が挙げられます。

現在、本会の登録メンバーは20名程度ですが、この度、広く皆様へ参加を呼びかけることに致しました。加入を御希望の方は、下記の事務局宛に、お名前、卒業年、郵便番号、E-mail IDを明記の上、官製葉書でお申し込み下さい。住所・電話番号、春と秋の年2回開催のコンペのご案内をお送り致します。

・住所：〒112 東京都文京区春日1-13-27
・宛先：中央大学理工学部電気電子工学科
築山研究室内
中大電気科OB会事務局

本会は、下記の方々を中心に運営されておりますので紹介します。

会長：青木義雄（同窓会前会長）
理事：篠田庄司（中央大学教授）
理事：築山修治（中央大学教授）
理事：天野浩志（同窓会会長）



ゴルフコンペ参加を募集しております

卒業生から〇〇先生へ・・・・・・・・

拝啓

一雨ごとに温かさを覚え今日このごろ、先生は如何お過ごしでしょうか。昨年9月末日に本配属の報告に訪れてから約半年間心ならずもつい御無音に打ちすぎまして、大変申し訳なく思っております。

さて、私は昨年10月2日を持ちまして大阪支店配属となり現在は関西電力の500KV送電線専用のシールドトンネル工事に携わっております。このシールドトンネル工事は延長6500mという超遠距離掘進、しかも従来例を見ない速さで掘り上げてしまうという超最先端の、そして日本一の工事作業所に籍を置いています。

私の仕事は電気計画、機械設備計画を主に行なっております。毎日職人さんの追回し、関連業者との打ち合わせ等をはじめ、非常に工事に重要な仕事に付いており、大成建設はどうやら私を買いかぶりすぎているのではないかとすら思ってしまうこともしばしばあります。特に電気関係は学生のときの勉強（特に実験）が大いに役立っていると思ひ、私に大成建設を勧めて下さった〇〇先生には本当に感謝している次第でございます。

中大電気科卒の友達とも連絡を取り合い、東京に里帰りしたときには会うこともしばしばであります。話題はというとやはり学生の時とは違って今の仕事の話であり、将来設計の話であり…と随分この1年間で話題が変わったのだと自分でもつくづく感じております。

〇〇先生には如何お過ごしでいらっしゃいますか？最近の気合いの入っていない学生たちにカツを入れ、就職戦線到来に伴い多くの学生とコミュニケーションを図っておられようかと思ひます。工事作業所で働いておりますと色々な人間と出会います。中には思うように就職ができずに辞めてしまい作業所に来るもの、200カイリ問題で漁業を断念して作業所に来るもの、一つの会社で一時代を築き定年後に第二の人生を暮らすために作業所に来るもの…数えたら切りがありません。人の数だけドラマがあるというのは何かの映画のタイトルようですが、こうして人の出入りの多い業界にいと今まで自分になかったドラマ、そして聞いていて悲しくなるドラマ、楽しくなるドラマに出会い、それらは私の心のとこかでいつまでも残り、私がいつか壁に当たったときに役立つであろうと考えております。しかし私がこういうことを書くと先生は“青木は色々な人と上手にやっているな”とお考えに

なるかもしれませんが、それは大きな間違えで私の回りには私の東京弁をすごく嫌う人もいるようで上手く接することのできない人もおり、悩みの種になっておりますが私は私の信念を貫き1997年も豪快に過ごしていこうと考えております。

学年末、始でお忙しいかと存じますがお体にお気をつけてください。以上近況報告申し上げます。

そのうち京都産の上手い酒を持って学校に遊びに行きます。

H9.3.31 青木 浩章

————— 昨年の懇親会からのスナップ



平成9年度 総会・懇親会開催のお知らせ

平成9年度の総会・懇親会は理工学部（後楽園駅）に近い地下鉄丸の内線茗荷谷駅徒歩2分新装なった茗溪会館（めいけいかいかん）において次のように開催いたします。沢山の同窓生と先生のご出席を期待します。

記

日 時 平成9年11月8日（土）13時～15時30分

会 場 茗溪会館 Tel.03-3943-0321

（文京区大塚1-5-23、丸の内線茗荷谷駅下車、春日通り大塚方向に100m）

会 費 10,000円（学部学生、院生、ご家族同伴の方は5,000円）

お願い 同封のハガキをお忘れなくご返信下さるようお願いいたします。

編集後記

同窓生の小林健一先生が退任されました。また、工学部創立以来、主として「実験実習」科目で熱心にご教授いただいた、有馬、鈴木、山口の三先生も定年を迎えられました。今後はご健康でお過ごし下さるようお祈り申し上げます。

今回誌の表紙の写真は、小林先生が時々ご自宅近くから眺められていらっしゃる富士の表情から一枚をお借りました。

同窓生皆さんは、どんなご趣味をお持ちでしょうか？

発行 中央大学理工学部電気・電子工学科

〒112 東京都文京区春日1-13-27

電話 03-3817-1862 FAX 03-3817-1847

発行人 天野浩志 編集人 市川友之

印刷所 エース芸株式会社 〒354 埼玉県富士見市鶴馬2589

電話 0492(51)1305